

チャールズ・キングズリー

13 三人の漁師

三人の漁師が 西の海に漕ぎだした

夕日が波間に沈むころ 西の海に漕ぎだした

おも 想いはいずれも 心やさしい女房のうえに

はずれ たたず 子供らは港の外に佇んで 父親たちを見送った

男は働き 女は泣く運命

5

かせぎ 漁獲はわずか ひもじい子供らに囲まれて

たとえ港の口に 波風騒いでも

三人の女房は 灯台のやぐらにすわって

夕日が波間に沈んだ今は ランプの芯を切って明るくし

突風 驟雨を みつめつづけた

10

にびいろ とぼり ぼろぼろで鈍色の 霧の帳がたち籠めた

男は働き 女は泣く運命

突然嵐が襲い 海が荒れ

たとえ港の口に 波風騒いでも

三つの死体が 輝く砂浜に打ちあげられた

15

潮が引き 朝日の輝く砂浜に

生きてはふたたび港に帰れぬ男たちのため

にようぼ しぼ 女房は泣き 手を絞って涙にくれる

男は働き 女は泣く運命

お 仕事を了えたものから 永眠に就く

20

港の口に騒ぐ波風とも おさらばだ

(山中光義訳)